



メルマガより転載(3月25日配信)

東日本巨大地震からの復興について

この大震災で犠牲になられた方々の人数が日に日に増えていくのを目の当たりにして、沈痛な思いであります。

さいとう健は、平日はほとんど党本部に詰めきり状態にあります。そこにいると多くの痛ましい話が耳に飛び込んで来て、気持ちの晴れることがありません。でも今の私にできることは、国会議員でなければできないことを、死力を尽くしてやり切ることだと心に決めております。

現在の震災対応は、緊急支援段階から生活支援・復旧の段階に入りつつありますが、そう遠くない時期に復興・再生対策の段階に入ります。

自由民主党では、そのときをにらんで、今から準備しておこうということで、「復興再生基本法等の検討に関する特命委員会」というものを本日立ち上げ、さいとう健は、一年生ながら幹事に就任しました。

1923年の関東大震災の時に、時の内務大臣、のちの帝都復興院総裁の後藤新平は、閣議に「帝都復興の議」を提案し、「被害は大きかったが、理想的な都市を建設するには絶好の機会だ」と述べました。

緊急対策に全力を尽くしながらも、同時に、新しい東北・東日本を建設する、志の高い復興再生計画を企画していきたいと思っております。

たとえば、街づくりで言えば、商店街、病院、公営住宅などを近接させたコンパクトシティ、災害に強い街づくり、環境に優しい街づくり、エネルギー効率のいい街づくり。都市計画も従来の線引きにこだわらない理想的な線引きを行う。

産業政策で言えば、農地の再整理を含んだ大規模農地を実現し競争力の高い農業の実現、近代的な漁業の推進、アジアのマーケットをにらんだ製造業の力強い再建等々。

いずれも、日本の将来を先駆けする取組を東北・東日本で実現しようというものです。

さらに、わが千葉七区も含めて首都圏有事の際の対策として、首都機能のバックアップ機能をどこかに確保することなどを盛り込んでいきたいと思っております。

被災者の皆さんは、今、筆舌尽くし難い苦しい時期を過ごしておられますが、この苦しい時期を脱した先には、「夢のあるふるさと」、「日本のこれからをリードするような新しい東北・東日本」があるんだと思っただけのような、そういうプランを企画していきたいと思っております。

後藤新平のプランは、結局頓挫いたしました。多くのものが残りました。昭和通り、日比谷通り、晴海通りはこのとき整備されました。隅田川にデザインを競い合うように橋がかかっているのも、隅田川を橋の博物館にしようという後藤のアイデアによるものです。横浜の山下公園をはじめとして都市公園の整備も進みましたし、築地の魚市場もこのときできました。

苦しみの先に夢がある。さいとう健は、その夢を皆さんとともに描いていきたいと思っております。

※ この週末地元に戻った際に、わずかな時間を利用して義捐金の募金活動をしたいと思います。ご協力いただけるとありがたいです。

3月27日(日)15:30~16:30 新松戸ダイエー前(雨天中止)

昨日は、東京電力の電力需給が逼迫し、帰宅の電車など多くの方々に深刻な影響が出ました。そこで、今後、停電はどうなるのか、かつて、さいとう健は、資源エネルギー庁でまさに電力の需給担当課長をしておりましたので、少しでもご参考になればと思い、メールさせていただきます。結論を先に申し上げれば、最低でも半年以上厳しい状況が続くのではないかとということです。ばたばたしておりますので、乱文ご容赦いただければ幸いです。

今回の大震災で、東京電力の供給力は、3200万kw程度にまで落ち込んでいます。この時期の需要は通常4100万kw程度ということなので、ざっくり1000万kwの供給不足となります。これは、相当に大きな数字です。このため、現在、輪番停電が行われております。

では、どうしたら供給力が増えるのか。

手っ取り早いのが、他の電力会社から融通を受けることです。しかしながら、東京電力の場合は、周波数が異なっているために、静岡県の富士川以西からの融通を受けることが基本的に難しい。西からの電力融通を受けるためには、富士川で周波数を変換する設備が必要になりますが、これが現状では90万kwの容量しかないのです。以前、私も当該施設を視察したことがあります。巨大かつ複雑な施設でありまして簡単に増設できるような代物ではありませんでした。

従いまして、中部電力や関西電力などで電気が余っていても東京電力には90万kw分しか送れない。

そこで、周波数が同じ東北電力、北海道電力から融通を受けることにはなりますが、今回は、その東北電力からの供給が全く期待できません。北海道電力も、津軽海峡の海底ケーブルを通して供給できる電力量は60万kwにすぎません。

従って、供給を増やす手段としては、停止中の火力発電所などを改修するなどして立ち上げるしかないのですが、それも、東京電力によれば、数週間で170万kw程度とのことです。ですから、5月頭ごろになっても、大幅な供給不足は続く可能性は高い。

さらに、夏ごろまでに新たに供給できるのは1000万kw程度だということですから、夏の時点での供給力は、4300~4500万kw程度かと推測されます。

ところが、電力需要は、夏がピークなのです。通常では、5000万kw台、6000万kw台の需要がありますから、電力不足は長期化することが容易に予測されます。つまり、輪番停電が相当長く続くことを覚悟しなくてはならないかもしれません。

以上は、全くの個人的見解です。

現在、東京電力が電気を供給している地域には、約4500万人の方々がおりますので、経済や生活に与える影響も大きい。

今後の動きを注視していきたいと思っております。

さいとう健メルマガでは、最新の地震情報も含め、ご登録を頂いている皆様へ随時お知らせしております。登録ご希望の方は、さいとう健ホームページよりご登録頂けます。ご不明な点は下記事務所までお問い合わせ下さい。

さいとう健 後援会事務所(千葉銀行裏)
〒270-0137 流山市市野谷665-40-103
TEL:04-7157-6223 FAX:04-7157-6224
E-mail: info@saito-ken.jp

さいとう健
モバイルサイトは
こちらから ⇒

<http://www.saito-ken.jp/m/>

